



Good News for Japan **とぎのこえ**

平成二十四年六月一日発行
昭和二十二年一月二十四日(第三種郵便物認可)

明治二十八年創刊 毎月一日・十五日発行

大いなる喜び

平本直



通称「ブースの森」(救世軍ブース記念病院内)

ひとりには「寄り添い、悲しみ、悩み苦しみを分かち合う者となるように、とお教えになりました。」

神様は、人間がしっかりと目を開いて自由に神様を求め、愛し、その命の祝福に与るようにと望んでおられます。人間は、神様と共に歩む時はじめて、自分の生きる道が正しいのだ、という自分自身に対する肯定と喜びを見いだすことができます。神様以外の、どのような価値があると思われるものを求めて生きて、決して真の幸せな道に歩んでいくとは言えないのです。

イ エス・キリストは、「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」(マタイによる福音書24章35節)と言われました。そして、すべてをご存じの神様の前に、「目を覚ましていなさい」、「忠実で賢い」生き方をし、「最も小さい者の

イ エス・キリストは、「わたしは道であり、真理であり、命である」(ヨハネによる福音書14章6節)と、現代に生きるわたしたちにその道を示しておられます。すべては空しいと思っている人にも、その人自身の生きることの意味を見いだし、その人を愛し、その人が生きていくことを望んでいる方がおられる、ということに気付かせてくださるのです。

指導者、富裕な人たちだけに説いたのではありませんでした。むしろ弱い人、貧しい人、病んでいる人、身寄りのない人、罪を犯して「自分はどうだめだ」と落ち込んでいる人、人から白い目で見られ、社会の片隅に追いやられていく人、そのような人のところに進んで出かけて行き、共に食事をし、語り合われたのです。神様は、イエス・キリストを通してご自分のところに帰って来てもらいたい人、弱い人、日陰にいると感じている人、悲しみ、苦しんでいる人、それらを待っておられます。それらの人々は、現代の迷える人々の姿、あふれるような物質的な富、目を奪うような歓楽の巷に身を任せ、ありとあらゆる情報を得ながらもなお真の幸せへのパスワード・心の豊かさへのコードナンバーが分からずに、いたずらにキーボードを叩き続ける姿、と、重なり合うのではないのでしょうか。

して、真の幸せの道に新しく出発する勇氣と力を与えてくださるのです。それは罪の赦しであり、空しさに捕らわれ、萎えた心からの解放です。イエス・キリストは、わたしたちが神様のもとに行くことを阻む罪を取り去るため、身代わりとなって十字架にかかって死なれ、三日目によみがえられました。それによって、すべての人が、からみつく罪から解き放たれて、新しい命の道に導かれるようになります。わたしたちがイエス・キリストの命の道を歩む時、そのとき、神様のみもとは大いなる喜びが沸き上がるのです。その喜びは解き放たれた人自身の内なる喜びとなつてその人を立ち上げさせ、前進させる源となるのです。

イエス・キリストの言葉は、信じる者の心のいちばん深いところで、大きな喜びとなり、力となつてあふれ出て、清く正しい生き方に進ませてくださいます。あなたもその大いなる喜びに招かれていくのです。

イ エス・キリストは、それらの一人ひとりを愛

謹んで震災のお見舞いを申し上げます。
一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。



救世軍清瀬病院 島田宗洋

誇る者は 主を誇れ

〈信仰の体験談〉

軒の小雀

わたしは蒸気釜の底のお焦げと芋とサバで育ちました。しかし、貧しいと感じたことは一度もありませんでした。母親は平凡な仏教徒でしたが、小学生のわたしをキリスト教の教会に連れて行きました。

東京に出てきてからは、竹馬の友に誘われて日本キリスト教団梅ヶ丘教会に移り、植松英雄牧師一家の影響下に十九歳で洗礼を受けました。これは出発点でありません。「父、御子、聖霊」は永らく観念的な理解のままでした。四次元の

この世で地を這う者にとつて、時空を超えた信仰の世界は、時に近く、時に遠くを歩き来しながら、年を重ねるに連れて「神はわたしを見捨てない」と自然に感じるようになりました。

信仰への道は、どのような人生であれ、すべからずそれぞれの人生から学んでいくものです。わたしの場合も人生の節々が貴重な信仰体験となりました。運の善し悪しとか因果応報という世界ではなく、イエスに倣って「御心ならば……」と想いを定めて、感謝の気持ちで祈り続けるのみです。

十五年の歳月が流れたある日、主治医として関わった手術で医療過誤が発生したのです。これを機に、医長と確執のあった先輩医師が患者さんを巻き込んで内部告発をおこないました。わたしは「将を射んと欲すればまず馬を射よ」と、スケープゴートにされました。

この医療過誤は、当時の世界的外科医らも同様の過ちを犯したという文献が複数あつて、注意が喚起されておりました。皮肉なことに、わたしはそれをやってしまったのです。

結果としては処分も起訴も無かったのですが、この出来事の後、約三年間うつ状態が続き、不安感、罪責感から自殺念慮も体験しました。これが契機となつて、どちらかと言えば「人間性善説」であつた人生観は「人間性悪説」へと変貌していききました。

わたしは人間の根源的な罪に眼を向けるようになっていきました。「神は罪もない御子イエスを何故十字架につけられたのか」「イエスを十字架につけた人間の根源的な罪―原罪とは何なのか」という問いが渦巻いてきました。

子どもの頃、岡山県邑久郡牛窓町という瀬戸内海に面した町に祖母や従兄弟が住んでいたもので、夏休みには牛窓の海水浴場で泳いでいました。そこから瀬戸内海の「長島」がよく見えます。この島には「長島愛生園」という「ハンセン病者」の収容施設があり、子ども心に、目鼻が潰れてあの島に閉じ込められている人びとの辛さに想いを馳せていました。

同じ「ハンセン病者」の収容施設である「国立療養所多磨全生園」(村上國男園長(後の清瀬病院長))で働く話があつたとき、新しい職場を決めるにあたって全く躊躇はありませんでした。「らい予防法」が一九九六



年に廃止された翌年のことでした。その後、ハンセン病元患者によって国家賠償訴訟が提訴されて国が敗訴になる、という出来事がありました。訴訟の経緯に関心を抱いておりました。「ハンセン病の国家隔離政策に対する国家賠償訴訟、和解、およびその後―私的なおぼえ書き―」と題した論文(ハンセン病・薬害問題プロジェクト『作爲・不作為へ』二〇〇七年(本の泉社))の中で、わたしは「傲慢な善意」や「不作為の罪」について述べました。

お誘いで、知られざる偉人田原淳のドイツ語原著「哺乳動物の心臓刺激伝導系」(二〇〇六年)の邦訳と英訳に二人で取り組んでいました。田原の世界的偉業は、心電図波形の解釈を可能にし、ペースメーカーの父となった大発見ですが、ドイツ語で書かれていた故に歴史の闇に葬り去られる寸前でした。二〇〇〇年に英訳を完成して世界の主要図書館に贈りました。英語圏から多くの反響がありました。この仕事は大きな慰めでした。

た際に、救世軍士官である英国の医師デュ・プレッシー先生にお世話になつて、セント・クリストファー・ホスピスやケアホームを見学しました。聞いていた通り、ホスピスは癌だけではなく、認知症を含めたすべての終末期の人々のためのものでした。当院のホスピス黎明期には救世軍の魂が脈打っています。発足時のホスピスでは癌以外の患者さんが約二五パーセントを占めていました。救世軍清瀬病院の原点を見る想いで

とが時代のニーズだ、と思います。「病院全体がホスピス」と考えて、「全体でリビング・ウィル(Living Will)に基づいたホスピスケア」を提供したいものです。この働きを更に深めることが、わたしたちに与えられた使命だと考えています。

今年百年目を迎える救世軍の医療

日本における救世軍医療の働きは、一九二二(大正元)年、下谷御徒町の救世軍病院設立に始まりました。今年で百年になります。

一九九五年に日本で働きを始めて以来、救世軍は、東京や大阪のスラム街で、娼妓救済、生活援助、家庭内の不和や育児の相談、病人の看護などの働きをおこなっていました。その中で、医療の必要な人たちが費用を心配せずに通院・入院できる病院の必要性が生じてきました。やがて篤志家の支援を得て、この最初の病院が開設されたのです。

また、一九〇七(明治40)年に来日した救世軍の創立者ウィリアム・ブリスにより、日本国内で蔓延していた結核患者の療養所開設の援助金が英国から送られました。その資金に日本国内における募金を加え、一九三二(大正2)年に救世軍結核療養所(後に杉並療養所と改称。現・救世軍ブリス記念病院、一九三九(昭和14)年には清瀬療養園(後に「清心療養園」と改称。現・救世軍清瀬病院)の設立に至りました。また、当時のニーズに応える形でおこなった訪問診療、救急車の出動、定額医療などは、現在の公的な働きの先駆けとなりました。

救世軍医療の精神は、身体的、精神的、社会的、スピリチュアルなニーズに総合的に応える―全人医療で、全国で三番目のホスピス病棟を設立し、終末期の「生の質」にもかわりをもっています。右記の両病院ともホスピスを併設しています。(詳しくは4ページ下段参照)

私の近くの救世軍を紹介してください。
 キリスト教についても知りたいです。
 「ときのかえ」の購読を申し込みます。

ご住所
 ご氏名

ご住所



ロンドンのデュ・プレッシー先生宅にて(筆者撮影)



日本福音ルーテル教会での講演(「ホスピスってなあに」)の後で

今的心境をひと言で表現するならば、「誇る者は主を誇れ」(コリントの信徒への手紙一 1章31節)という聖句に凝集されると思っています。力強く、落ち着いて、ユーモアをもつて!

清瀬病院長、日本基督教団梅ヶ丘教会所属

この部分を封書か葉書に貼り、裏面下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブース 大將 リンダ・ボンド (万国本営 英国 ロンドン) 日本司令官 吉田 眞 (救世軍本営 東京都千代田区) <http://www.salvationarmy.or.jp> E-mail: webmaster@salvationarmy.or.jp



世界をみつめて

〈日本〉東日本大震災 被災地復興支援レポート (続)

4月29日、女川町(宮城県牡鹿郡)で建設中だった仮設店舗街(50店舗)が、「きぼうのかね商店街」としてオープンしました。このうち30店舗は、米国水産会社トライデントシーフード社からの献金とS.A.W.S.O(米国救世軍)からの資金で建設されたものです。店舗の建設のほか、商店街内のアスファルト舗装まで、救世軍が支援しました。

オープニングセレモニーには、アメリカからトライデントシーフード社の会長及び社長一行も来日して、式典に出席しました。救世軍からは、米国総司令官ウィリアム・ロバーツ中将夫妻が来日、日本司令官夫妻、震災支援事務局長と共に出席し、ロバーツ中将が祝辞を述べました。

会場では、救世軍のプラスバンドがオープニングセレモニーと午後のミニコンサートで演奏するとともに、昨年4月13日以降、女川町の各所において給食活動をおこなってきた緊急災害救援車両キャンティーン



式典を見守る町の人々



祝辞を述べる米国総司令官



式典に花を添えたバンド演奏



桜餅茶を提供

カーも出動。お祝いの場にふさわしく、会場を訪れた人々に桜餅茶(白餡に桜の塩漬けと抹茶を入れた飲み物)を振る舞いました。式典は、テープカット後、町の復興のシンボルである「希望の鐘」(震災前に女川駅前にあった4個のカリヨンベルのうち、被災し、原型をとどめたまま発見された1個の鐘)が鳴らされ、集まった多くの町民の方々が晴れ渡った青い空に風船を飛ばし、新しい出発を祝いました。



希望の鐘



オープンのテープカットで

米国救世軍はこの他にも、気仙沼漁協に、作業用のテント(11張)、作業用トラック(パワーゲート付4台)、大型コンプレッサーと潜水具(10セット)(写真右)などの支援をおこなっています。また、女川町の被災者に弁当を届ける働き支援として、配達専用軽自動車2台を提供しました。



現在までに海外の救世軍から、多くの支援がなされていますが、4月にはノルウェーの救世軍人が来日し、大船渡市(岩手県)の仮設住宅に住む人々に手製のレモンケーキを届けました。この仮設住宅には、給食支援をしてきましたが、仮設に住む高齢者の孤立防止の働きのために、コピー機を貸与する支援もしています。復興のための支援は続きます。

救世軍創立記念 野外コンサート

6月3日(日) 午後2時
日比谷公園小音楽堂

日曜の昼下がり、さわやかなプラスバンドの響きをお楽しみください。

入場無料

救世軍とは

The Salvation Army

イエス・キリストを唯一の救い主と信じる、プロテスタントのキリスト教会です。創立者はイギリスのメソジスト教会の牧師だったウィリアム・ブース。1865年、ロンドンの貧しい人々、社会から顧みられない人々の物心両面からの救いをめざして、働きを始めました。現在は、世界124の国と地域で、助けを必要としている人々のニーズに^{こた}えながら、神の愛を伝えています。

日本での働きは、1895(明治28)年に始まり、現在は、46の小隊(教会にあたる)と11の分隊(伝道所)、19の社会福祉施設、2つの病院(ホスピス併設)を通して働きを進めるとともに、街頭生活者支援や災害被災者救援及び復興支援など、社会奉仕活動をおこなっています。

救世軍ブース記念病院

〒166-0012 東京都杉並区和田1-40-5
TEL 03-3381-7236(代表)
<http://boothhp.salvationarmy.or.jp>

〈診療科目〉内科、消化器内科(内視鏡)、循環器内科、神経内科、精神科、整形外科、皮膚科、リハビリテーション科、ホスピス外来、漢方内科、各種健康診断 199床(療養病棟147床、一般病棟32床、緩和ケア病棟(ホスピス)20床)入院随時



●両病院とも(財)日本医療機能評価機構認定病院です。清瀬病院は病院機能評価付加機能(緩和ケア機能)認定も取得。両病院とも、どなたでもご利用いただけます。

ブース記念老人保健施設グレイス

〒166-0012 東京都杉並区和田1-40-15
TEL 03-3380-1248

併設:杉並区地域包括支援センター「ケア24和田」、ブース記念ケアマネージメントセンター和田、ブース記念訪問看護ステーション、ブース記念訪問介護ステーション ルツ・ナオミ

●両病院及びグレイスでは看護師、介護福祉士を募集中

救世軍清瀬病院

〒204-0023 東京都清瀬市竹丘1-17-9
TEL 042-491-1411
<http://kiyosehp.salvationarmy.or.jp>

〈診療科目〉内科、循環器科、神経内科、皮膚科、リハビリテーション科、ホスピス科 142床(療養病棟117床〔うち介護保険病床43床〕、ホスピス緩和ケア病床25床)入院随時



発行日 毎月一日・十五日
定価 一日号一部五〇円(〒六〇円) 十五日号一部六〇円(〒六〇円) クリスマス特集号(十二月一日号) 一部一〇〇円(〒六八円) 一年分(三三〇円)送料七二八円 振替:〇〇一八〇一五四四〇〇

発行兼印刷人 救世軍 代表者 吉田 眞 齋藤 恵子

編集人 齋藤 恵子

〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町二丁目十七番

電話 東京(03)三三七〇八八一

発行所 救世軍本営

印刷所 図書印刷株式会社

(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

(この欄に通信文を書くと第三種扱いになりません)